

## 「お兄ちゃんのかいた絵」 （自作資料）

たかしは、動物を育てるのが好きでした。

4月に3年1組になってから、係の仕事がうさぎの世話係になりました。

たかしは、毎日学校に行くのが楽しくてたまりませんでした。

係の仕事は、朝早く、うさぎ小屋のそうじをして、えさと水をやることです。

「たかしくん、今日、うさぎはちゃんとえさを食べたかい。」

担任の村山先生は、毎日たかしに聞きます。

たかしは、村山先生に聞かれることがうれしくて、自分からすすんでうさぎのようすを話していました。

6月に入りました。うさぎは、あいかわらず元気です。たかしも係の仕事をがんばっています。

そんなある日の金曜日に、しゅくだいが出ました。

3年1組で、何か学校のためになることをしようということになったのです。

話し合いのけっか、うさぎ小屋のかんばんを作ることに決まりました。

たかしは、うさぎが大好きなのでとてもうれしい気持ちになりました。

「それでは、みなさん、らいしゅうの月曜日までに、うさぎ小屋にふさわしいかんばんの絵を考えてきてください。」

と先生から話がありました。たかしは、

「自分の絵がえらばれるようにがんばるぞ。」と思いました。

ところが日曜日の夜になっても、たかしはなかなか絵がかけません。

そこで、絵をかくのがとくいなお兄ちゃんにそうだんしました。

お兄ちゃんは、「うさぎの絵ならかんたんだよ。」

といいながらさらさらと絵をかいて、たかしにその絵をみせてくれました。

「やっぱりお兄ちゃんは絵がうまいな。」

と思いました。

ところが、なかなかうまくかけないたかしは、ねむくなってしまいました。そして、絵ができないまま、とうとうねてしまいました。

よく朝、目がさめたたかしは、あわてしました。

でも、もうまにあいません。たかしは、お兄ちゃんがかいた絵の下に自分の名前を書いて学校へ持っていきました。

学級活動の時間になり、みんながかいた絵を、黒ばんにはってどれにするか決めることになりました。

「たかしくんの絵がいちばんいい。」

とみんなが言いました。

「たかしくんは、いつもうさぎのことを大切にしているから、こんな絵がかけるんだ。すごいね。」

と村山先生も言ってくださいました。

うさぎごやのかんばんは、たかしの絵に決まりました。

「どうしよう…。」

たかしは、なやみました。

「みんなは、ぼくがかいたうさぎの絵だと思っている…。」

たかしは、がまんできなくなり、帰りの会で思い切って立ち上がりました。

「本当は、ぼくのお兄ちゃんがかいた絵なんです。」

教室がいっしゅんしずまりかえました。

その時、村山先生が話をされました。

「たかしくん、よく言ったね。本当のことを言うのは、勇気がいるんだ。」

先生の話聞いて、クラスの友だちからも、

「たかしくんは正直だ。」

という声があがりました。たかしは、本当ことを言ったので、心がらくになりました。

うさぎのかんばんの絵は、明日もう一度話し合いをして決めることになりました。

家に帰ったたかしは、だまってお兄ちゃんの絵を自分のものにしたことをあやまりました。

かってにそんなことをしたことをお兄ちゃんから、ひどくしかられました。

でも、「学級みんなに正直に話したことは、うれしい。」とってくれました。

その日、夜おそくまで考えたたかしは、自分でうさぎの絵を完成させることができました。

できあがった絵を見て、うれしい気持ちでいっぱいになりました。